「平和と人権」市民ネットワーク情報 No.22-9（通算 89 号）
事務局発行（TEL 0557-45-1182） http://peaceito.moo.jp 2022.9/01

安倍国葬反対！の声をあげよう

◆岸田政権は安倍元首相の葬儀を国葬とし、9 月２７日に行うことを決めました。当日、すべての国民は死者を悼み弔意をあらわすよう求められます。しかし、銃撃犯の殺害動機が旧統一教会への恨みであり、同教会と深い関係があった安倍氏が標的にされたことが明らかになると、世論の風向きが変わりました。旧統一教会と自民党右派議員との積年の関係があぶり出され内閣支持率は急降下し、安倍国葬に反対する声が広まりました。国葬による安倍礼賛の世論作りは見事に失敗に終わりました。

聞く耳で決めりゃよかった国葬も (8/10 朝日川柳)

と嘆いても後の祭り。今回の国葬決定にはハナから無理がありました。

①手続き面…死後６日後の異例に早い決定でした。法律の根拠がないのに、国会で論議もせず閣議で一方的に決めました。まるで故安倍首相の政治手法に倣ったかの如くです。

②実体面…国葬にする説得力のある理由がない。一番長い首相在任期間、東日本大震災からの復興に果たした功績、地球を飛び回った外交…どれも「言うに事欠いた」理屈づけです。逆に哀悼を表するに**値しない**功績(?)なら、いくらでも上げることが出来ます。なかでも、もっとも大きな罪は「憲法忠誠義務違反」の常習者であったことでしょう。

③憲法上の疑義…法の下の平等を定め、内心の自由を保障した憲法の原則に「国葬」という葬儀の形態が矛盾しないか、問題となります。たとえ、黙祷を強制しないにしても、国費をもって葬儀の全費用(20 億円とも？)が賄われる一点で、全国民は経済的に葬儀に動員されることになります。

◆◆どこからみても安倍国葬には理由がありません。岸田首相は何を目論んで国葬としたのでしょうか。

ⅰ)党内事情…参議院選に勝利したのち、長期政権を目指すうえで最大派閥安倍派の支持が不可欠と考えたこと。党内の求心力を維持するための安倍国葬だったと考えられます。

ⅱ)世論工作…安倍元首相の悲願だった憲法改正と日本の軍事大国化へ世論を導くステップに安倍礼賛のセレモニーを利用しようとしたのではないかと思います。

◎**伊東市民アクション**は、安倍国葬に反対し、日本の軍事大国化と憲法改正の企てを認めないことをアピールするため、集会とパレードを実施することにしました。９ 月１９日は戦争法強行採決日から７年目に当たります。伊東市民の変わらぬ意志を訴えましょう。(別紙チラシ参照)

国葬反対、軍事大国化 NO！集会とパレードに参加を

◎9月19 日(月・祝) 14:00、松川公園に集合

14:00～14:30…集会、スピーチとアピール

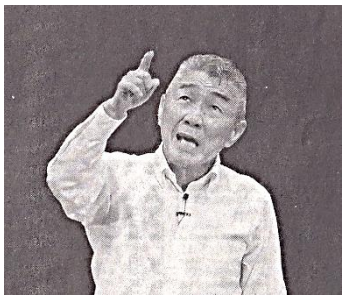
14:30～15:30…市内パレード（松川公園→伊東駅→松川公園）

9月17日(土)「テレビで会えない芸人」上映

こんな人、こんな映画です

鴻上尚史　…映画の中で紹介されている松本ヒロさんのネタに大笑いしました。松本ヒロさんという芸人がいることは、日本の一つの希望だと思います。

湯川れいこ…ヒロさんの笑いの優しさや温かさ。額に汗して真摯に生きていこうとする姿に、私も絶対にあきらめないぞ！と思う。明日の平和と幸せは、絶対に死んでもあきらめてはいけないのだ。



金平茂紀　…笑いは時にビンタよりも効く。

佐高　信　…この国で唯一のシャープなお笑い芸人の誕生の過程がこの映画で活写されている。

立川志の輔…こんなにも饒舌で話術に長けた人間味豊かなパントマイマーを私は知らない。

斉藤昭夫　…松本ヒロさんのステージを一度見たことがある。最初から最後まで笑い放しで、どんな話しだったか覚えていない。(談)

▲ 注 意　(案内チラシは通信 8 月号に同封(添付)しました)

◎「ひぐらし会館」3F ホール。開場 13:30、開演 14:00、上映時間は 81 分です。
チケットは 700 円/人。お求めの方は事務局(☎45-1182)までお問い合わせください。

◎当日、検温、マスクの着用をお願いします。

◎市内でコロナの感染が治まっていません。感染者がさらに拡大するようなら、中止も検討せざるを得ません。中止するときは電話等で連絡します。チケット購入代金は返金します。

9月16日にはこんな催しがあります

知っていますか　瀬長亀次郎

―沖縄と伊豆をつないで謎を解く―

日時…９月１６日(金)13:00 開場、13:30 開演
会場…ひぐらし会館ホール
講師…加藤好一
料金…無料、会員外の方も入場できます

主催…伊東市民劇場(新生市民劇場)
連絡先…090-1986-4425(加田)
※別紙案内をご覧ください。

シリーズ ①

わたしと憲法との出会い…

戦争が出来る国にしないために　　富岡幸子さん

私が憲法を大事に思った原点は戦争体験だと思います。５歳だった私は３歳の妹を背負い、風呂敷に０歳の妹を包んで手に下げ、私の手を引いた母と駅裏にある防空壕に向かって歩いていたときのことです。突然米軍の戦闘機が頭上に現われて機銃掃射が始まり、母は道端の畑に飛び込み、手を離した私は一人防空壕に向かって泣きながら走った時の恐ろしかったことが忘れられないのです。

戦後の食べ物がない悲しく辛かったことも戦争は絶対にイヤだと思いました。憲法を学校で学び、この憲法があれば戦争に出会うことはないと思いました。その時は深く学んだわけではなかったのですが、戦争をしない国になったんだという思いが強く残りました。

私の実家は戦前父と母の二人で煮豆や総菜を作って販売していたのですが、戦争が進むにつれ原材料が統制になり商売を続けていくことが出来なくなり、最後は鍋・釜まで没収されてしまいました。平和でなければ商売は続けていかれない、これが私の実感です。

今、毎日のテレビでウクライナの戦況が放映されていますが、あれはどこかの国の出来事、と見過ごすことはできません。若い人たちに、私たちの恐ろしかった体験をすることがないように、憲法を守ることが出来る今、力を合わせるよう呼び掛けたい思いで一杯です。

ジャーナリストの背骨として　　豊田龍介さん

私と憲法との出会いは、大学の法学部に入学した時から始まります。必修科目として憲法を学びました。

憲法の自由権的基本権、社会権的基本権をはじめとする人権条項が、世界に誇るべき先進性をもち、今日の知る権利、環境権、スポーツ権等、新しい権利もすべて憲法の人権条項から根拠づけられることも知りました。

大学卒業後、ジャーナリストの道に進み、法律に強い記者だということで、憲法と法律にかかわる解説・論評をたくさん書きました。憲法は自分のジャーナリストとしての人生の背骨だったと言ってもいいでしょう。「９条の会」結成の呼びかけ人になった評論家の加藤周一さん、憲法学者の奥平康弘さんら多くの学者・知識人との交流も懐かしい思い出です。

改憲勢力の９条攻撃と憲法改悪策動はあなどれませんが、私はあの悲惨な戦争経験をもつ日本国民がこれを許すはずはない、と確信しています。市民運動のみなさんと「改憲ＮＯ！」の声を上げ続けます。

(21/2 スピーチする豊田さん)

22 平和展を終えて

伊藤廣光

８月２０日（土）から２２日（月）まで、市役所展望ギャラリーで平和展２０２２を開催しました。展示内容は①「原爆と人間」写真パネル、「伊東市平和都市（核兵器廃絶）宣言」、そして今年４月に念願かなって伊東市初の「平和モニュメント」が小室山に建立されたこともお知らせすることができました。その他憲法９条、核兵器禁止条約（要旨）及び現在の状況などを取り上げました。

②第２次世界大戦前後の戦争資料、③原爆、戦争に関わる映画「きのこ雲の下で何が起きていたか」「この子を残して」「ひまわり」などの上映、④最終日の２２日午後に行った、「平和紙芝居」の上演と「平和コンサート」、と盛りだくさんの内容でした。

３日間の参加者は延べ６７名でした。今回はコロナ感染者の激増という環境のもとで行われたため、積極的に参加を呼びかけることが憚れたこともあり、展示をご覧になる方がぽつりぽつりという感じで、少し残念な結果となりました。

今年はロシアによるウクライナ侵略という大事件が勃発し、プーチン大統領が核兵器の使用をちらつかせるなど、私達が長年願ってきた核兵器廃絶の流れが未だかつてない危機に直面する事態となりました。また、その影響で NPT 再検討会議で決議文の採択を行うことができませんでした。私達は、このような世界情勢のもとで、今回開催した「平和展」のような企画を、より多くの市民の皆さんに見ていただき、「核兵器の恐ろしさ」「戦争の悲惨さ」を身近なこととして考えていただくよう努力して行く必要があると痛切に感じています。皆さんのご支援・ご協力をぜひともお願いいたします。

８月の１９日行動の報告

「暑いね」「暑いですね」と挨拶代わりに言葉を交わしながら、観光会館前に集まりました。二カ月ぶりのスタンデイングです。新婦人の大川さんが司会・進行。古川宣子さんの伴奏、稲葉芳子さんがリードして「青い空は」を全員で歌って始まりました。

初めに斉藤昭夫さんがスピーチ。核兵器禁止条約の締約国会議と NPT 再検討会議の論議を紹介しました。岸田首相が初めて NPT 会議に出席してスピーチしながら、核兵器禁止条約について何も語らなかったことを批判し、二つの条約は補完関係にあると説きました。新婦人の松本さんは「ジェンダー平等」について語りました。「ジェンダー」とは社会的に作られた性であり、社会の様々な場面で男女の平等を推進していくことが課題であると訴えました。三好は安倍元首相の国葬を取り上げ、国葬の目的が安倍礼賛の世論作りであり、安倍の遺志を口実に軍事大国化と憲法改正を目論むものである、と批判しました。

最後は石井和子さんの音頭でシュプレヒコール。国政から市政まで、市民の力で政治を変えようと訴えました。30 分余りの活動でしたが、西日をまともに受け熱さと暑さがこたえました。参加者は赤旗記者の内田さんを含めて 24～25 名。皆さんご苦労様でした。　（文責　三好康昭）